

業績 (2014 年度)

A. 原著論文

1. Hori K, Kobayashi N, Atsumi H, Nagayama A, Kondoh M, Noge I, Kimura M, Utsugi H, Iwasaki T, Nakamura M, Kimura T: Changes in compliance with Japanese antiemetic guideline for chemotherapy-induced nausea and vomiting: a nationwide survey using a distributed research network. *Support Care Cancer* 22: 969–977, 2014
2. Tanaka N, Naito T, Yagi T, Doi M, Sato S, Kawakami J: Impact of CYP3A5*3 on plasma exposure and urinary excretion of fentanyl and norfentanyl in the early post-surgical period. *Ther Drug Monit* 36: 345–352, 2014
3. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Antoku Y, Nakashima N, Yokoi H, Ohe K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: Evaluation of two Japanese regulatory actions using medical information databases: a “Dear Doctor” letter to restrict oseltamivir use in teenagers, and label change caution against co-administration of omeprazole with clopidogrel. *J Clin Pharmacol Ther* 39: 361–367, 2014
4. Ohshiro J, Yamamura H, Suzuki Y, Imaizumi Y: Modulation of TMEM16A-channel activity as Ca^{2+} activated Cl^- conductance via the interaction with actin cytoskeleton in murine portal vein. *J Pharmacol Sci* 125: 107–111, 2014
5. Horie A, Ishida K, Shibata K, Taguchi M, Ozawa A, Hirono K, Ichida F, Hashimoto Y: Pharmacokinetic variability of flecainide in younger Japanese patients and mechanisms for renal excretion and intestinal absorption. *Biopharm Drug Dispos* 35: 145–153, 2014
6. Higashi N, Waki M, Sue M, Kogane Y, Shida H, Tsunekawa N, Hasan A, Sato T, Kitahara A, Kasaoka T, Hayakawa Y, Nakajima M, Irimura T: Heparanase-mediated cleavage of macromolecular heparin accelerates release of granular components of mast cells from extracellular matrices. *Biochem J* 458: 291–299, 2014
7. Kiyota T, Takahashi Y, Watcharanurak K, Nishikawa M, Ohara S, Ando M, Watanabe Y, Takakura Y: Enhancement of anticancer effect of interferon- γ gene transfer against interferon- γ -resistant tumor by depletion of tumor-associated macrophages. *Mol Pharm* 11: 1542–1549, 2014
8. Mino Y, Naito T, Kasahara K, Kawakami J: Medication incidents related to the process of prescribing, dispensing, and administration of medicines to pediatric patients. *Jpn J Pharm Health Care Sci* 40: 449–453, 2014
9. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito T: A detection

- algorithm for drug-induced liver injury in medical information databases using the Japanese diagnostic scale and its comparison with the Council for International Organizations of Medical Sciences/the Roussel Uclaf Causality Assessment Method scale. *Pharmacoepidemiol Drug Saf* 23: 984–988, 2014
10. Osawa T, Naito T, Kaneko T, Mino Y, Ohnishi K, Yamada H, Kawakami J: Blood distribution of bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients. *Clin Biochem* 47: 54–59, 2014
 11. Naito T, Yamada T, Mino Y, Kawakami J: Impact of inflammation and concomitant glucocorticoid administration on plasma concentration of triazole antifungals in immunocompromised patients. *Clin Chim Acta* 441: 127–132, 2015
 12. Ishida T, Naito T, Kawakami J: Simultaneous determination of erlotinib and its isomeric major metabolites in human plasma using isocratic liquid chromatography-tandem mass spectrometry and its clinical application. *Biomed Chromatogr* (in press, 2014)
 13. Naito T, Kubono N, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: Amlodipine passage into breast milk in lactating women with pregnancy-induced hypertension and its estimation of infant risk for breastfeeding. *J Hum Lact* (in press, 2014)
 14. Naito T, Mino Y, Aoki Y, Hirano K, Shimoyama K, Ogawa N, Kagawa Y, Kawakami J: ABCB1 genetic variant and its associated tacrolimus pharmacokinetics affect renal function in patients with rheumatoid arthritis. *Clin Chim Acta* (in press, 2015)
 15. Kawakami J: Clinical Pharmacology and Pharmacoepidemiology for Medication Safety in Clinical Settings. *YAKUGAKU ZASSHI* (in press 2015)
川上純一: 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. *薬学雑誌* (in press, 2015)
 16. Naito T, Kawakami J: Interindividual variation of pharmacokinetic disposition of and clinical responses to opioid analgesics in cancer pain patients. *YAKUGAKU ZASSHI* (in press, 2015)
内藤隆文, 川上純一: がん患者における麻薬性鎮痛薬の薬物動態及び臨床効果の個人差要因. *薬学雑誌* (in press, 2015)

B. 記事・総説・寄稿

1. Kawakami J, Naito T: Optimization of individual analgesic therapy in patients with cancer pain. *Jpn J Clin Pharmacol Ther* 45: 169–175, 2014
川上純一, 内藤隆文: がん性疼痛緩和領域における個別化薬物療法の構築. *臨床薬理* 45: 169–175, 2014 (2012年度臨床薬理学研究振興財団賞学術奨励賞研究成果報告)
2. 内藤隆文, 堀雄史: 薬物療法専門薬剤師がスタッフを支援、どんな業務も担当できる組

- 織に育成. 薬剤部訪問: 浜松医科大学医学部附属病院, *Excellent Hospital* 23: 10–11, 2014
3. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定を終えて: 伝統に根ざし歴史を築く. 巻頭言, *日病薬誌* 50: 641, 2014
 4. 川上純一: 病棟薬剤業務の効果と定着・拡充へ向けた課題. *薬局* 65: 2209–2212, 2014
 5. 川上純一: 薬剤師による病院経営への貢献: チーム医療における病院薬剤師の役割. *病院* 73: 774–778, 2014
 6. 内藤隆文: 薬のジェネラリスト「薬物療法専門薬剤師」-存在感増す、認定・専門薬剤師 (3) . *CBnews マネジメント*. キャリアブレイン (電子版) . 2014 年 9 月 2 日
 7. 堀雄史: 江口記念がん優秀論文賞を受賞して. 受賞報告, *日病薬誌* 51: 1169, 2014
 8. 川上純一: がん治療の院内連携、地域連携: 分科会の見どころ・聞きどころ (執筆) . *薬事日報* No. 11485 (2014 年 10 月 6 日) , p. 11
 9. 川上純一: 病院経営・管理への貢献に向けた薬剤部マネジメント. *Lilly Pharma Academy* 1: 2–3, 2014
 10. 内藤隆文, 青野浩直, 堀雄史: クローズアップ Pharmacy. *医療経営情報 NEOSYS*. 第 11 号. 2014 年 12 月, p.16–17
 11. 川上純一: 医療現場における薬学研究の道. *薬学研究奨励財団*, *薬奨ニュース* No. 20 (2015 年 1 月) , p. 8
 12. 川上純一: 薬剤師のための臨床思考トレーニング. *Book Review*, *月刊薬事* 57: 240, 2015
 13. 川上純一: 巻頭言. *静岡県病院薬剤師会会報* 64: 4–6, 2015
 14. 堀雄史: 「江口記念がん優秀論文賞」を受賞して. *静岡県病院薬剤師会会報* 64: 44–45, 2015
 15. 平野公美: (西部地区) 病棟薬剤業務におけるスキルアップを考える会. 各支部の研究会・勉強会等の紹介, *静岡県病院薬剤師会会報* 64: 52–53, 2015
 16. 八木達也: 2014 年 (第 49 回) ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議に参加して. *日病薬誌* 51: 330–332, 2015
 17. 吉川望美: 母校を語る. *薬事新報* No. 2862 (2014 年 11 月 6 日) , p. 25

C. 報告書

1. 川上純一 (代表) , 堀雄史 (分担) : 医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究 (総括研究報告書) . 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金, 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業, 平成 25 年度総括・分担研究報告書, p. 1–12, p.41–46, 2014

2. 川上純一（代表）、堀雄史（分担）：医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究（総括研究報告書）。平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金、医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業、平成 23–25 年度総合総括・分担研究報告書, 2014
3. 青木事成, 赤沢学, 秋山祐治, 石川広己, 井出健二郎, 大江和彦, 川上純一, 土屋文人, 富山雅史, 永井良三（座長）, 松村泰志, 山口拓洋, 山本隆一: 医療情報データベース基盤整備事業のあり方に関する検討会報告書. 医療情報データベース基盤整備事業のあり方に関する検討会, 厚生労働省, 2014 年 7 月
4. 川上純一（代表）、堀雄史（分担）：医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースの利活用方法に関する薬剤疫学研究（総括研究報告書）。厚生労働科学研究委託費（医薬品等規制調和・評価研究事業）平成 26 年度委託業務成果報告書, 2015 年 3 月
5. 堀雄史, 加藤文美: 病院診療データベースを利用した白金製剤処方患者における聴覚障害発症症例の検出（分担研究報告書）。医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースの利活用方法に関する薬剤疫学研究（代表研究者: 川上純一）, 厚生労働科学研究委託費医薬品等規制調和・評価研究事業, 平成 26 年度委託業務成果報告書, 2015 年 3 月
6. 川上純一, 堀雄史: 先行的能動的サーベイランスの実例: 医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学研究（分担研究報告書）。MID-NET を用いた医薬品等のベネフィット・リスク評価のための薬剤疫学研究等の実践的な分析手法及び教育に関する研究（代表研究者: 中島直樹）, 厚生労働科学研究委託費医薬品等規制調和・評価研究事業, 平成 26 年度委託業務成果報告書, 2015 年 3 月

D. 番組出演・報道

1. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会総会 川上会長「力や勇気を与えてくれる」(記事)。薬事新報 No. 2831 (2014 年 4 月 3 日), p. 22–23
2. 川上純一: 佐藤記念国内賞に川上教授(記事)。薬事新報 No. 2831 (2014 年 4 月 3 日), p. 38
3. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定のポイント(出演)。ラジオ NIKKEI「病薬アワー」, 2014 年 4 月 14 日
4. 川上純一: 佐藤記念国内賞受賞講演: 臨床薬理学と薬剤疫学, 医療現場で両研究を展開(記事)。医薬ジャーナル 50: 1316–1317, 2014
5. 川上純一: 佐藤記念国内賞受賞川上純一氏の業績(記事)。鈴木洋史, ファルマシア 50:

458, 2014

6. 川上純一: 宮城県病薬平成 26 年度総会 川上純一氏が特別講演, 26 改定と病院薬剤師の方向性 (記事) . 薬事新報 No. 2837 (2014 年 5 月 8 日) , p. 22
7. 川上純一: 薬剤管理指導料と病棟加算は一本化?: 点描 (記事) . 薬事新報 No. 2838 (2014 年 5 月 15 日) , p. 38
8. 川上純一: 生活改善で高血圧防げ (記事) . 静岡新聞 No. 26,000 (2014 年 6 月 2 日) , p. 15
9. 川上純一: 正しく学ぼう高血圧とジェネリック医薬品: 静岡市しずぎんホールユーフォニア. ほっこりトピックス (情報番組) , Sole いいね! , SBS テレビ, 2014 年 6 月 3 日
10. 小野寺知哉, 川上純一, 早見優, 吉本恵: 高血圧だと心臓が危ない?! , 正しく学ぼう高血圧とジェネリック医薬品 (採録記事・全面広告) . 静岡新聞 No. 26,031 (2014 年 7 月 4 日) , p. 17
11. 川上純一: サプライズ人事: 点描 (記事) . 薬事新報 No. 2845 (2014 年 7 月 10 日) , p. 38 (739)
12. 川上純一, 丸山修治: SGLT2 阻害薬「カナグリフロジン」の服薬指導のコツ (インタビュー記事) . 薬事日報 No. 11449 (2014 年 7 月 11 日) , p. 8
13. 川上純一: 統合倫理指針案の特徴と対応: 川上純一氏 (浜松医科大学教授・医学部附属病院薬剤部長) に聞く (インタビュー記事) . 薬事日報 No. 11484 (2014 年 10 月 6 日) , p. 5
14. 川上純一: 抗がん剤「曝露対策」進展に高まる期待: 厚労省が“労働問題”として傾向, 日病薬は報酬評価「拡大」を要望へ (記事) . リスファクス No. 6680 (2014 年 10 月 27 日) , p. 2
15. 川上純一: 博士課程の充実めぐり議論: 研究力不足に懸念相次ぐ. 東海ブロック合同大会 (記事) . 薬事日報 No. 11501 (2014 年 11 月 17 日) , p. 2
16. 川上純一: 日病薬東海ブロック・薬学会東海支部 合同学術大会を開催, 700 名が参加. 薬事新報 No. 2867 (2014 年 12 月 11 日) , p. 22-23
17. 川上純一: 大阪府病薬中堅薬剤師研修会 川上氏 (浜松医大) が講演 (記事) . 薬事新報 No. 2872 (2015 年 1 月 15 日) , P. 22-23
18. 川上純一: フィジカルアセスメントが重要: 静脈経腸栄養学会, 栄養療法 副作用症状の発見に (記事) . 薬事日報 No. 11537 (2015 年 2 月 18 日) , p. 3
19. 川上純一: 日病薬 中医協専門員としての参加「必要性かんじていない」 (記事) . リスファクス No. 6762 (2015 年 3 月 2 日) , p. 6

20. 川上純一: 日本病院薬剤師会第 50 回臨時総会 協議事項、ブロック代表質問など. 薬事新報 No. 2881 (2015 年 3 月 19 日), p. 22-23

E. 著書・翻訳

1. 内藤隆文 (分担執筆): 免疫抑制薬 TDM 標準化ガイドライン 2014 (臓器移植編), 金原出版, p.57-74, 東京, 2014 年 11 月
2. 内藤隆文 (分担執筆), 川上純一 (分担執筆): 臨床検査データブック 2015-2016. 高久史磨監修, 黒川清, 春日雅人, 北村聖編集, 医学書院, 東京, 2015 年 2 月

F. 学会活動

【特別講演・シンポジウム・受賞講演など】

国内学会

1. 見野靖晃: 自己免疫疾患患者における免疫抑制療法と感染予防法の最適化 (受賞講演). 第 60 回日本薬学会東海支部大会, 鈴鹿, 2014 年 7 月
2. 川上純一: 26 年度診療報酬改定とジェネリック医薬品の使用促進, 医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 日本薬学会医療薬科学部会, 東京, 2014 年 6 月
3. 堀雄史: 病院の診療情報データベースを利用した研究の実例. 薬剤疫学: 文献の批判的吟味と研究のヒント. 医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 日本薬学会医療薬科学部会, 東京, 2014 年 6 月
4. 内藤隆文: 薬学的介入の症例サマリーの作成のポイント. 薬物療法専門薬剤師の立場から. 病院薬学セミナー. 第 24 回 日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会. 平成 26 年度 日本薬学会東海支部例会. 合同学術大会 2014, 静岡, 2014 年 11 月
5. 内藤隆文: がん患者におけるオキシコドンによる臨床効果の個人差要因. 病院薬剤師によるトランスレーショナルリサーチの最前線. 第 8 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 熊本, 2014 年 11 月
6. 見野靖晃: 全身性エリテマトーデス患者におけるイノシンーリン酸脱水素酵素活性評価の有用性 (第 7 回臨床薬理研究振興財団研究大賞受賞講演). 第 7 回研究報告会. 臨床薬理研究振興財団, 東京, 2014 年 11 月
7. 堀雄史: 病院の診療情報データベースを利用した研究の実例. 薬剤疫学的利用のための医療情報システム DB 分析の実際. 第 15 回日本医療情報学会学術大会, 千葉, 2014 年 11 月
8. 川上純一: 臨床薬剤業務とチーム医療の推進. 薬剤師分科会企画セッション: NST にお

ける薬剤師のフィジカルアセスメントをどうするか, 第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 神戸, 2015年2月

9. 堀雄史: がん化学療法による悪心嘔吐予防における制吐薬適正使用ガイドラインの遵守傾向～分散型研究ネットワークの実装～. 薬剤セッション: 医療連携の新展開～入院、外来、在宅における薬剤情報マネジメント. 平成26年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議, 岐阜, 2015年2月

【一般発表】

国際学会

1. Ishida T, Naito T, Suda T, Kawakami J: Simultaneous determination of erlotinib and its major metabolites in human plasma using an isocratic liquid chromatography tandem mass spectrometry. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC2014). Apr 2014 (Melbourne, Australia)
2. Naito T, Yamada T, Mino Y, Kawakami J: Impact of inflammation and concomitant glucocorticoid on pharmacokinetic disposition of voriconazole and itraconazole in immunocompromised patients. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC2014). Apr 2014 (Melbourne, Australia)
3. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: Identification of drug-induced liver injury in medical information databases using the Japanese diagnostic scale. 30th International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Nov 2014 (Taipei, Taiwan)
4. Yagi T, Hirao K, Mino Y, Naito T, Kawakami J: Clinical impact of antibiotics on anticoagulation ability in patients receiving warfarin. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2014 Midyear). Dec 2014 (Anaheim, CA, USA)
5. Osawa T, Naito T, Kaneko T, Mino Y, Yamada H, Ohnishi K, Kawakami J: Blood distribution of bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2014 Midyear). Dec 2014 (Anaheim, CA, USA)

国内学会

多数のため省略

G. 学会・会議開催

1. 第5回研究室リトリート, 浜松, 2014年5月
2. Pharmaceutical Regulatory Science セミナー in 浜松医科大学薬剤部 (ヘルスリテラシー

と薬リテラシー. 東京大学大学院薬学研究科講師草間真紀子先生), 浜松, 2015 年 1 月

3. English セミナー in 浜松医科大学薬剤部, 浜松, 2015 年 2 月

H. 研究会

1. 堀雄史: SS-MIX を主体とした分散型研究ネットワークの構築—処方実態調査などの事例紹介医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団. 第 158 回レギュラトリーサイエンス エキスパート研修会, 東京, 2014 年 6 月
2. 川上純一: 病院薬剤師に関する医療政策・診療報酬改定の方向. 病棟薬剤業務におけるスキルアップを考える会 (HOPS), 浜松, 2015 年 2 月

I. 学外講義・特別講演

1. 川上純一: 病院薬剤師の方向性: 診療報酬改定や人材育成等に対応した組織作り. 西部支部理事・評議員会, 静岡県病院薬剤師会, 浜松, 2014 年 4 月
2. 川上純一: 病院薬剤部門マネジメント: 診療報酬改定や人材育成等に対応した組織作り. 学術講演会, 群馬県病院薬剤師会, 高崎, 2014 年 4 月
3. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性. 平成 26 年度第 1 回横浜・川崎地区研修会, 神奈川県病院薬剤師会, 横浜, 2014 年 4 月
4. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性, 宮城県病院薬剤師会総会・特別講演, 仙台, 2014 年 4 月
5. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定について. 平成 26 年度診療報酬改定説明会, 東京都病院薬剤師会, 東京, 2014 年 4 月
6. 川上純一: 医療現場が創薬に求めるもの. 創業 50 周年記念講演会, フロイント産業株式会社, 浜松, 2014 年 4 月
7. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定に関する留意点. 呉支部研修会, 広島県病院薬剤師会, 呉, 2014 年 4 月
8. 川上純一: 26 年度診療報酬改定について: 病院薬剤師関連. 静岡県病院薬剤師責任者研修会 (中部支部), 静岡, 2014 年 5 月
9. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定と病棟薬剤業務の推進. 第 2 回 Okinawa Pharmacy Director Conference, 沖縄県薬剤師会・沖縄県病院薬剤師会, 宜野湾, 2014 年 5 月
10. 川上純一: 26 年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性. 平成 26 年度国公立大学病院医療技術関係職員研修 (薬剤部職員) 教育講演, 東京大学医学部附属病院, 東京, 2014 年 5 月
11. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性. 第 1 回 Clinical Pharmacist

Expert Meeting, 福岡, 2014 年 5 月

12. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定とチーム医療における薬剤師の役割. The 2nd Pharmacist Seminar in AICHI, 名古屋, 2014 年 5 月
13. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定を踏まえた薬剤業務の将来展望. 平成 26 年度第 1 回兵庫県立病院薬剤師研修, 神戸, 2014 年 5 月
14. 川上純一: ジェネリック医薬品って何だろう. 静岡新聞市民公開講座, 静岡新聞社・静岡放送, 静岡, 2014 年 6 月
15. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性. 第 46 回臨床実例報告会・シンポジウム, 栃木県病院薬剤師会, 宇都宮, 2014 年 6 月
16. 川上純一: 病棟薬剤業務の将来展望: 薬物治療への貢献—診療報酬改定や人材育成等に対応した組織作り. 臨床薬理学セミナー2014, つくば市薬剤師会・茨城県薬剤師会, つくば, 2014 年 6 月
17. 川上純一: 「成長して, 信頼されて, 活躍できる」病院薬剤師を育てるには. 平成 26 年度全国済生会病院薬剤師研修会, 全国済生会病院薬剤師会, 大阪, 2014 年 6 月
18. 川上純一: 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. 特別講義, 昭和薬科大学, 町田, 2014 年 6 月
19. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定における DPC 制度見直しの中での薬剤. KURUME Pharmacy Director Conference, 久留米, 2014 年 6 月
20. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定と中小病院薬剤師の将来展望. 平成 26 年度中小病院実践セミナー, 日本病院薬剤師会, 東京, 2014 年 6 月
21. 川上純一: 診療報酬改定や人材育成等に対応できる病院薬剤部門マネジメント. 長野県病院薬剤師セミナー, 長野県病院薬剤師会, 松本, 2014 年 6 月
22. 川上純一: 医薬品関連の 26 年度診療報酬改定と今後の展望. 第 328 回生涯教育研修会, 浜松市医師会, 浜松, 2014 年 6 月
23. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定における DPC 制度見直しの中での薬剤. 第 1 回 Kitakyusyu Pharmacy Director Conference, 北九州, 2014 年 6 月
24. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定と中小病院・診療所薬剤師の展望, 平成 26 年度福岡県中小病院・診療所勤務薬剤師研修会議, 福岡県病院薬剤師会, 福岡, 2014 年 6 月
25. 川上純一: 病院薬剤部門マネジメント: 診療報酬改定や人材育成等に対応した組織作り. 平成 26 年度全国労災病院薬剤部長会議, 独立行政法人労働者健康福祉機構, 川崎, 2014 年 6 月
26. 川上純一: 病棟薬剤業務の将来展望: 薬物治療への貢献. 第 15 回青森県臨床薬学研究会, 青森県病院薬剤師会, 青森, 2014 年 7 月

27. 川上純一: 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. 第22回 臨床薬剤師のための講習会, 北陸薬物療法モニタリング懇話会, 石川県病院薬剤師会・富山県病院薬剤師会・福井県病院薬剤師会, 金沢, 2014年7月
28. 川上純一: 平成26年度診療報酬改定と病棟薬剤業務の方向性. Pharmacist meeting in Asahikawa, 旭川病院薬剤師会・旭川薬剤師会, 旭川, 2014年7月
29. 川上純一: 診療報酬改定と病院薬剤師の将来展望. 愛媛県病院薬剤師会特別講演会, 松山, 2014年9月
30. 川上純一: 医療政策・診療報酬改定と病院薬剤師の方向性. 第45回全国厚生連病院薬剤部長会議学術総会, 名古屋, 2014年9月
31. 川上純一: 診療報酬改定とDPC制度: ジェネリック医薬品の使用促進. 第24回日本医療薬学会年会, 名古屋, 2014年9月
32. 川上純一: 病院薬剤部門マネジメント: 診療報酬改定や人材育成等に対応した組織作り. 平成26年度全国赤十字病院薬剤部長会議, 東京, 2014年11月
33. 川上純一: 病院薬剤部門の管理・経営: 強く持続可能な組織をどう築くのか. 第37回中堅薬剤師研修会(次代を担う薬剤部門幹部の心構えや考え方). 大阪府病院薬剤師会, 大阪, 2014年11月
34. 川上純一: 人材育成: 新人採用・教育から薬局長に必要な知識や考え方まで. 第37回中堅薬剤師研修会(次代を担う薬剤部門幹部の心構えや考え方), 大阪府病院薬剤師会, 大阪, 2014年11月
35. 川上純一: 医療政策・診療報酬改定とジェネリック医薬品の使用促進. 第74回九州山口薬学大会, 長崎, 2014年11月
36. 川上純一: 薬価・医薬品政策と薬剤師にもとめられるもの. 薬事法改正後の薬局経営と薬剤師の将来像を考える, WEB講演会, 2014年12月
37. 川上純一: 医療政策・診療報酬改定と中規模病院薬剤師の方向性. Okinawa Pharmacy Director Conference, 沖縄県病院薬剤師会, 宜野湾, 2015年1月
38. 川上純一: 薬剤師による病院経営への貢献度を体系化する(診療報酬による評価の限界、経済的アウトカムによる意義、および管理・経営スタッフとしての役割等). 地域中核病院研究会薬剤部会, 東京, 2015年2月
39. 川上純一: 医療政策・経済と病院薬剤師の今後の方向性. PM研究会, 東京, 2015年2月
40. 川上純一: 病院薬剤部門マネジメント: より高い専門性をもった薬剤師の育成. ファーマシーマネジメントについて考える, 第1回東海あすか学術講演会, 名古屋, 2015年3月
41. 川上純一: 地域包括ケアシステムと薬剤師に求められること. 薬剤師のためのWEBシ

ンポジウム, 東京, 2015 年 3 月

J. 研究助成

1. 内藤隆文 (代表), 川上純一 (分担): 平成 26 年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「がん悪液質の病態時におけるオピオイドによる鎮痛効果、有害作用の個人差要因の解明」 (平成 26–28 年度) (新規)
2. 川上純一 (代表), 内藤隆文 (分担): 平成 26 年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「がん性疼痛緩和に用いる鎮痛薬の個人差要因に基づく至適薬物療法の構築」 (平成 24–26 年度) (継続)
3. 川上純一 (分担), 堀雄史 (分担), 佐井君江 (代表): 平成 26 年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「医療情報データベースを用いた免疫関連バイオ医薬品と化学薬品間の相互作用評価」 (継続)
4. 等浩太郎 (代表): 平成 26 年度科学研究費補助金, 若手研究 (B) 「がん患者におけるオピオイドの鎮痛効果とドパミン神経系に及ぼす影響との関係解明 (継続)
5. 高井伸彦 (代表): 平成 26 年度科学研究費補助金, 奨励研究 「アプレピタントがワルファリンの薬効および薬物動態に及ぼす影響の解析」 (新規)
6. 大澤隆志 (代表): 平成 26 年度科学研究費補助金, 奨励研究 「多発性骨髄腫患者における体内動態の解析に基づいたボルテゾミブ治療の最適化」 (新規)
7. 田代将貴 (代表): 平成 26 年度科学研究費補助金, 奨励研究 「抗悪性腫瘍剤ダカルバシンの光分解物濃度と血管痛との関係解明及び最適調製条件の確立」 (新規)
8. 佐藤聖 (代表): 平成 26 年度科学研究費補助金, 奨励研究 「がん悪液質患者における炎症性サイトカインがオキシコドンの体内動態に及ぼす影響」 (新規)
9. 川上純一 (代表), 堀雄史 (分担), 木村通男, 大江和彦, 中島直樹, 横井英人, 池田俊也, 佐藤嗣道, 佐井君江, 頭金正博: 平成 26 年度厚生労働科学研究費, 医薬品等規制調和・評価研究事業 「医薬品等の市販後安全対策における医療情報データベース利活用のための薬剤疫学研究」 (新規)
10. 川上純一 (分担), 中島直樹 (代表): 平成 26 年度厚生労働科学研究費, 医薬品等規制調和・評価研究事業 「MID-NET を用いた医薬品等のベネフィット・リスク評価のための薬剤疫学研究等の実践的な分析手法及び教育に関する研究」 (新規)
11. 内藤隆文 (代表): 公益財団法人 骨粗鬆症財団. 第 11 回 (平成 27 年度) リリー研究助成プログラム (骨領域研究) 「骨粗鬆症患者におけるデノスマブの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明」 (新規)
12. 見野靖晃 (代表), 内藤隆文 (分担): 公益財団法人 薬学研究奨励財団. 第 35 回 (平

成 26 年度) 研究助成金 (グループ B) 「高尿酸血症患者における薬力学的指標に基づくフェブキソスタット投与設計法の確立」 (新規)

13. 石田卓矢: 国立大学法人浜松医科大学. 平成 26 年度大学院生の国際学会発表支援事業
「Simultaneous determination of erlotinib and its major metabolites in human plasma using an isocratic liquid chromatography tandem mass spectrometry」 (新規)
14. 大澤隆志: 国立大学法人浜松医科大学. 平成 26 年度大学院生の国際学会発表支援事業
「Blood distribution of bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients」 (新規)
15. 内藤隆文: 国立大学法人浜松医科大学. 平成 26 年度若手研究者の国際学会発表支援事業
「Impact of inflammation and concomitant glucocorticoid on pharmacokinetic disposition of voriconazole and itraconazole in immunocompromised patients」 (新規)
16. 八木達也: 国立大学法人浜松医科大学. 平成 26 年度若手研究者の学会発表支援事業
「Clinical impact of antibiotics on anticoagulation ability in patients receiving warfarin」 (新規)
17. 八木達也: 国立大学法人浜松医科大学. 平成 26 年度褒賞研究費 (新規)
18. 八木達也: 日本病院薬剤師会 (平成 26 年度). ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議参加助成 (新規)

K. 資格認定

1. 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 1 名
2. 日本病院薬剤師会 精神科薬物療法認定薬剤師 1 名
3. 日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師 17 名
4. 日病薬認定指導薬剤師 9 名
5. 日本病院薬剤師会 放射性医薬品取り扱いガイドライン講習 7 名
6. 日本医療薬学会 指導薬剤師 5 名
7. 日本医療薬学会 認定薬剤師 12 名
8. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師 2 名
9. 日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師 1 名
10. 日本臨床薬理学会 指導薬剤師 2 名
11. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師 7 名
12. 日本臨床薬理学会 認定 CRC 1 名
13. 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 9 名
14. 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 7 名
15. 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 4 名

16. 日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士 2名
17. 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 1名
18. 妊娠と薬情報センター拠点病院業務研修会 受講 4名
19. 日本 DMAT 隊員 1名
20. 日本薬剤疫学会 ファーマコビジランス・スペシャリスト認定 1名
21. 日本臨床化学会 認定臨床化学者 1名
22. 有機溶剤作業主任者 技能講習受講 1名
23. 普通第一種圧力容器取扱作業主任者 技能講習受講 1名

L. 施設認定

1. 日本医療薬学会 認定薬剤師研修施設
2. 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
3. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
4. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師研修施設
5. 厚生労働省薬剤師養成事業 実務研修生受入施設

M. 学位

1. 薬学（博士） 8名
2. 医学（博士） 7名